



学校だより

# 深谷

令和5年10月31日

11月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

## 心を一つに

校長 石原 加代子

秋晴れに恵まれ、やっと制限のない形で「スポーツフェスティバル2023」を開催することができました。たくさんの方々の温かい応援に心から感謝申し上げます。

スポーツフェスティバルは、学校教育目標「自ら学び 伝え つながる深谷っ子」を実現するための大切な行事の一つです。スローガン「感謝のバトンを未来へ ～心を一つに自分の限界へチャレンジ！～」を達成しようと、目標を意識して主体的に取り組みました。

低中高ブロックの演技では、学年に応じてよりよい動きを目指しました。どの学年も、休み時間や家で進んで練習したり、分からないときには友達や教師に確かめたりする姿がよく見られました。低学年は自信をもって笑顔いっぱい踊り、中学年は友達と息を合わせて旗を巧みに操作しました。高学年は感謝の気持ちを全力で表現しようと、一体感のある圧巻の演技を披露し、下級生から羨望の眼差しが注がれました。創立50周年を記念して深谷小学校区盆踊り実行委員会から寄贈していただいた法被が、子どもたちをより輝かせました。みんなと心が一つになる喜びを味わったことでしょう。

応援団の力強い応援は、全校のやる気を高め、盛り上げました。リレーでは、高学年が低学年に教えたり、自主的にチームでバトンパスがうまくできる方法を考えたりしました。最後まで真剣に走る姿・チームが一丸となってバトンをつなぐ姿は、協力して最後まであきらめずに全力を尽くす大切さを示したことでしょう。

6年生一人ひとりが、なかよし班のリーダーとしての役割を果たそうと頑張っていました。上級生は下級生を思いやり、優しく接している様子も見られました。異学年とのかかわりを通して、つながりが深まり、互いに自尊感情を高め合いました。

振り返りには、目標をもって頑張ったこと・自分の役割に精一杯取り組んだこと・最高学年としてできることを考えて行動したこと・不安を乗り越えリーダーとして頑張ったことなど達成感があふれていました。自分の限界に挑もうと、あきらめずに全力を出し切ったからこそ、最高のスポーツフェスティバルと感じたのではないのでしょうか。

自分自身や集団を見つめ、何をどのように取り組むかを考えたり、友達と学び合い協力し合ったりする過程が大事であると考えています。育成を目指す資質・能力である「自己調整しながら主体的に粘り強く取り組もうとする姿勢」「望ましい人間関係を築こうとする力」が伸びたと思っています。また、観ている人に元気と感動を与え、感謝のバトンは未来へつながったのではないのでしょうか。私たち教職員は、感動の余韻に浸りながら、子どもたちの成長を語り合い、幸せをかみしめました。さらなる成長が見られるように、より一層努めてまいります。

P T A役員をはじめ、保護者の皆様に見守りや片付けなど、お力添えをいただきました。近隣の方々は、本校の教育活動にご理解をいただき、温かく励ましてくださいました。深谷っ子愛護会の皆様は、気持ちよく実施できるように環境整備をしてくださりました。いつも深谷っ子を大切に想ってください、心から感謝申し上げます。引き続き地域の皆様・保護者の皆様の温かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。